

かけはし

2018年
3月
vol.93

ご自由にお持ちください

【特集】全診療科
ニーズに応え
質の高い医療を実現する
当院の各診療科



がんになっても
自分らしく生きるために chapt-06

地域連携医療の絆

インフォメーション

地域の未来をみつめて— vol.06 災害時医療



県内の大規模病院では唯一の社会福祉法人である当院が、「済生の心」を胸に地域の未来を見つめ、地域の皆さんとともに取り組む活動(CSR活動)をご紹介します。



不測の事態にも備えを

地震、火災、津波…。大規模災害は、豪雨や雪害に見舞われた本県にとっても対岸の火事ではありません。災害時においても地域の皆さんに適切な医療を提供し続けることも当院の使命です。

当院は福井県から「災害拠点病院」の指定を受け、災害時に医療救護活動の中心的な役割を担い、他施設との連携のもと災害対応にあたるための体制を整えています。県内だけでなく、全国の被災地に医療救護チームを派遣し、災害救護支援も実施。2016年の熊本地震では、主要道路の寸断や家屋の倒壊が起こる中、当院の医師や看護師らが被災地に駆けつけ、阿蘇地区の医療機関で救急診療や病棟業務などを行いました。災害急性期(発生後48時間以内)に活動する、専門的な訓練を受けた災害派遣医療チーム「DMAT」も院内で結成しています。

また、災害時にも限られた医療資源で入院・外来患者さんの診療を継続し、被災者の救護にあたるよう、職員を対象に防火・防災訓練を実施しています。昨年は震度6の地震による傷病者受け入れを想定し、治療の優先順位を決めるトリアージや避難誘導などを訓練。これを踏まえ、災害対策マニュアルの検証にも継続的に取り組んでいます。

不測の事態にこそ、済生会があつて良かったと思っただけできるよう、災害に負けない体制で地域に貢献していきます。

理念

患者さんの立場で考える

行動指針

私たちは、患者さんの立場にたつて行動します
私たちは、信頼される医療を提供します
私たちは、チームワークを高め、活力溢れる職場をつくります

Tumor internal medicine and blood internal medicine

腫瘍内科・血液内科



腫瘍内科部長 中山 俊

数少ない化学療法専門内科

食道、胃、腸、肝胆膵、肺等の一般的ながんに加え、血液リンパ系がん、メラノーマ、原発不明がん、肉腫等の化学療法(抗がん剤治療)を行います。

世界的に注目の免疫療法

免疫細胞の働きを活発にしてがん細胞を攻撃する「免疫チェックポイント阻害剤」を使った治療も専門で行っています。

一般的な血液疾患も対応

一般的な血液疾患である、貧血や血小板減少、白血球増多などの診療も専門としています。

Internal medicine

内科[腎臓・透析]



内科部長 潮木 保幸

質の高い透析治療

清浄度の高い透析液・濾過透析の活用・除水の緩除化等を通じて、体に優しい透析治療を行っています。

領域エキスパートによる治療

専門医・透析認定士・認定看護師など、経験豊富な有資格者が多数従事。確実性の高い治療を行っています。

種々の疾患に対応

各種薬物療法や血液浄化療法により、腎臓病をはじめ難治性の大腸・肝臓・膵臓・心臓病の治療に関わっています。

Internal medicine

内科[肝臓]



内科主任部長 野ツ俣 和夫

県内唯一の肝疾患診療連携拠点病院

肝臓診療の中心として、肝疾患相談支援室、肝臓病教室、肝炎ウイルス健診などの活動を通じ、県全体のレベル向上を図っています。

肝臓診療関連部門の充実

C型肝炎、慢性肝炎、肝硬変の患者数は北陸でトップ。各分野の専門家が揃い、肝臓のあらゆる検査、治療(移植以外)が可能です。

全国が注目の積極的な院外活動

C型肝炎経口剤治療が約600例など肝炎最新治療数は全国トップクラス。多数の肝疾患関連治験を手掛け、独自の臨床研究や新しい診療法も積極的に発表。

Blood internal medicine

血液内科



血液内科副部長 澤崎 愛子

豊富な経験を持つ専門医の診療

血液内科専門医が、血液関連の相談に対して迅速かつ丁寧な診療を行っています。豊富な経験と実績を発揮して、化学療法および造血幹細胞移植を的確に施行し良好な治療成績を収めています。

綿密なチーム医療の実践

薬剤部や栄養部など各部門のスタッフと毎週カンファレンスを行い、各部門の専門的な情報を共有し綿密な治療方針を立てチーム医療を実践しています。

Internal medicine

内科[循環器]



内科部長 前野 孝治

カテーテルによる不整脈根治治療

カテーテルアブレーション治療を県内で最も早く開始。心房細動(不整脈)の根治療法でも良好な治療成績です。

安全性の高い心臓の血管治療

急性心筋梗塞や狭心症の多くの方にカテーテルを用いた血管(冠動脈)の手術を確実・安全に行っています。

包括的心臓リハビリテーション

狭心症や心不全で入院した方に多職種のスタッフによる十分な教育・指導を行い病気の再発予防に努めています。

Internal medicine

内科[消化器]



内科部長 渡邊 弘之

消化器内視鏡検査数は日本有数

健診内視鏡も含めて、内科・外科で年間約24,000例の消化器内視鏡検査・治療件数を誇り、日本有数の内視鏡施設です。

消化管・肝胆膵全領域をカバー

消化管・肝胆膵のすべての領域の専門家があり、カプセル・小腸内視鏡、超音波内視鏡の最新検査も含めて充実した診療をしています。

専門医の充実した内視鏡治療

消化管止血術、消化管粘膜腫瘍の切除術、総胆管結石の切開+砕石術、減黄術・胆道ステント留置術など内視鏡治療が充実しています。

Internal medicine

内科[内分泌・代謝]



内科部長 番度 行弘

経験豊富な専門スタッフが多数

糖尿病・内分泌専門医(延べ7人)、糖尿病専門スタッフ(25人)と豊富な臨床経験をもつスタッフが揃っています。

高水準の診療と医療安全対策

糖尿病や甲状腺関連で、国内でも高水準の診療を実施。安全対策として内科以外の入院患者さんの血糖管理を全て専門医が担当します。

充実の連携システムと患者会

かかりつけ医と太いパイプを持ち、円滑な連携体制を実現。県内随一の活発な患者会活動を20年以上継続しています。

Internal medicine

内科[呼吸器]



内科部長 白崎 浩樹

緊密な各部門の連携

多様な呼吸器疾患に対応して診療しています。特に肺がんでは、呼吸器外科や放射線科等の関連する部門と緊密な連携を図りながら、的確な診断、適切な治療方法の決定に努めています。

スタッフや機器の充実

専門医の間だけでなく、認定看護師などの各メディカルスタッフとも協力し、チームでの医療を心がけています。超音波ガイド下気管支鏡、局所麻酔下胸腔鏡、CT仮想気管支鏡などの機器も導入し、呼吸器疾患の診療に役立てています。

特集

FEATURE

ニーズに
質の高い医療を
当院の各診療科
実現する

当院では、各診療科が専門分野の特色を活かし、豊富な知識や技術を持つ専門医や看護師、メディカルスタッフがチームとなって、質の高い診療に取り組んでいます。さらに、診療科の垣根を越えて連携することで患者さんにとってより良い治療を実現しています。

Pediatrics

小児科



小児科主任部長 岩井 和之

子どもの病気をすべて診る

かかりつけ医からの紹介が多く、地域の基幹小児科として診療。入院では呼吸器疾患や消化器疾患が多く、未熟児・新生児の治療も行います。

専門性の高い診療も

小児の腎臓病、アレルギーの専門医もおり、第1・3週の水曜午後には心臓外来を行っています。

子どもの健やかな成長を見守る

乳幼児健診や予防接種など、子どもの健康を守る活動にも力を入れています。

Urology

泌尿器科



泌尿器科主任部長 山本 秀則

高い手技レベルの腹腔鏡手術

2人の泌尿器腹腔鏡手術技術認定医を中心に、難易度の高い手術を含めて、多数の腹腔鏡手術を行っています。

結石治療

経皮的結石治療実績は全国と比べても多く、さらにレーザーを使った尿管鏡手術や対外衝撃波碎石術等、症例ごとに最適な治療を行います。

女性泌尿器科

女性診療センターで診療しています。また、腹圧性尿失禁に対しコンチネンス体操教室(無料)を行っている、県内唯一の施設です。

Surgery

外科[下部消化管]



外科主任部長 宗本 義則

県内有数の大腸がん診療実績

大腸がん、炎症性腸疾患で、豊富な診療実績を誇り、数多くの大腸内視鏡検査、手術を行っています。

連携パス・患者会を通じた支援

連携医とがん術後連携パスを使用して診療にあたり、患者会ではフレンドリーなサポートを行っています。

専門医による高度な診療

当院では、大腸肛門病学会専門医4人が、診断・治療(手術、抗がん剤治療)・経過観察・緩和まで一連で担当しています。

Surgery

外科[血管]



外科医長 小杉 郁子

「血流(血の巡り)」の専門家

福井県内には3名しかいない脈管専門医が、体内の血流について診察・治療を行います。特に足は第二の心臓を言われ、血流が悪いと健康に大きく影響します。症状が血流によるものか否かを診断し健康維持のお手伝いをします。

静脈疾患、リンパ浮腫の治療

下肢静脈瘤に対し、原因や症状によって切除術やレーザー焼灼術を行っています。万全のアフターケアは脈管専門医ならではのです。また、静脈血栓塞栓症(いわゆるエコノミークラス症候群)やリンパ浮腫の診断・治療も行っています。

Surgery

外科[上部消化管]



外科医長 天谷 奨

院内の協力体制が充実

外科のみでなく、内科や腫瘍内科、放射線科、緩和ケア科、病理科などの医師と協力。最善の治療を行っています。

人間ドックが充実

当院人間ドックにて病気を早期発見。手術加療から術後の経過観察まで、一貫してスムーズに治療を行っています。

内視鏡外科手術の充実

傷の小さな内視鏡外科手術を提供できる環境が整っています。最近では、胃の手術の1/2を腹腔鏡で行っています。

Surgery

外科[肝胆膵]



外科医長 寺田 卓郎

各科専門医との良好な関係

専門性の高い肝胆膵疾患において消化器内科、放射線科、病理医などの専門家と良好に連携し診療を行っています。

高難度肝胆膵外科手術の実績

専門医がおり、北陸有数の手術件数を誇ります。国内の専門機関と連携・交流し、技術と知識の向上に努めています。

腹腔鏡下肝臓、膵臓手術の導入

低侵襲な外科治療である肝臓、膵臓内視鏡外科手術を先進医療としてすでに導入。経験を積んでいます。

Surgery

外科[呼吸器]



呼吸器外科医長 滝沢 昌也

各部門との緊密な連携

呼吸器内科や放射線科などの関連部門と密接に連携して、診断や治療方針を決定し、最善の治療を行っています。

県内トップクラスの呼吸器外科手術実績

年間約150例の手術実績があり、その半数以上は肺がんの手術です。胸腔鏡を積極的に導入し、低侵襲な外科治療を行っています。

治療の一環としての禁煙支援

呼吸器疾患だけでなく、多くの病気の原因となるタバコ。当院では禁煙外来を行っており、保険を適用した禁煙治療が受けられます。

Surgery

外科[乳腺]



外科部長 笠原 善郎

豊富な臨床経験で質の高い医療

年間約180例と県内随一の診療実績。診断・手術から薬物・放射線治療までレベルの高い治療を実践しています。

チーム医療で患者さんを支援

臨床放射線技師、乳がん看護認定看護師、薬剤師、がん化学療法認定看護師、理学療法士ら有資格者が患者さんを支えます。

メンタル、ソーシャルケアも

身体のみならず、精神的、社会的、経済的な面にも配慮。臨床心理士等による、心のケアや社会的サポート体制を整えています。

Dermatology

皮膚科



皮膚科主任部長 長谷川 義典

専門医による皮膚腫瘍手術

県内では数少ない日本皮膚科学会皮膚悪性腫瘍指導専門医が皮膚腫瘍を診療します。入院、日帰り手術を合わせ年間実績は300件以上。

レーザーによる色素性疾患治療

日光黒子などの「しみ」から太田母斑などの「あざ」に属する色素性疾患に、Qスイッチルビーレーザーによる治療を行っています。

低侵襲な下肢静脈瘤治療も可能

下肢静脈瘤の診断から重症度に応じて、硬化療法、レーザー機器による治療、手術まで実施。皮膚の合併症の治療も行います。

Department of Obstetrics and Gynecology

産婦人科



産婦人科主任部長 金嶋 光夫

充実したがん診療

子宮がんや卵巣がんなどに、画像診断や放射線治療装置トモセラピーなども駆使した適確な治療を提供しています。それ以外の婦人科疾患も合わせ、お腹に傷のつかない腔式手術実績は年間100件以上と多く、美容面や早期回復にも効果を発揮しています。

安心・安全・快適なお産

産科は独立した外来で、他科との連携もスムーズなため、あらゆる合併症妊娠に対応可能です。充実した設備(陣痛時のストレス緩和のシステム)を備えた周産期センターでは、ベテランのスタッフのもと、安心・安全な分娩を行っています。

Oral surgery

口腔外科



口腔外科医長 山口 智明

全口腔外科疾患に対応可能

親知らずの抜歯や顎骨嚢の摘出、顔面外傷、口腔がん、インプラント、顎関節疾患など多様な疾患に対応します。

手術への迅速な対応

当院麻酔開始や手術室の協力により、可能な限り迅速な時期に手術が行える体制を整えています。

連携システムと患者紹介・逆紹介

開業歯科医院と連携し、互いの専門分野を活かした治療を施行。紹介患者さんの受け入れ・逆紹介も積極的に対応。

Orthopedics

整形外科



整形外科科主任部長 五之治 行雄

人工関節センターを開設

人工関節センターを開設し、専門チームのもと患者さんに安心して人工関節手術を受けていただける体制を強化いたしました。

手外科専門医による高度医療

直径1.0mm以下の血管の吻合や剥離が可能な技術を基に、顕微鏡を使用しない場合でも精度の高い手術を行っています。

専門性を持った脊椎脊髄外科

従来法の手術を安全に行うのはもちろん、2cm弱の創で行う内視鏡手術や経皮的スクリューを使った低侵襲な脊椎固定術にも取り組んでいます。

Ear, nose and throat, Neck surgery

耳鼻咽喉科・頸部外科



耳鼻咽喉科・頸部外科主任部長代行 清水 良憲

めまい患者を幅広く診察

学会認定めまい相談医が常勤で、様々なめまいの治療にあたっています。5年間で2千人近い初診めまい患者の診療実績があります。

県内初の睡眠時無呼吸専門外来

最近社会問題となっている睡眠時無呼吸症候群の診断治療を行う専門外来を2018年度開設予定です。

体に優しい頭頸部がん治療

放射線治療と動注化学療法による、副作用の少ない頭頸部がん治療を実施。放射線科医と連携し、その人に最適な治療を行います。

Neurology

神経内科



脳卒中診療

脳神経外科の先生と密に連携をとり、診療しています。脳梗塞では、適応があると判断した方は血栓溶解療法を行い、血管内治療までの橋渡しをします。また、追加リハビリ転院が必要な方、在宅に戻られる方のサポートを行っています。

自己免疫疾患や神経難病の診療

過剰な免疫反応により、自分で脳や末端の神経を傷つけることがあり、その診断・治療を行います。根本的な治療のないパーキンソン病などの難病は、進行の具合を見て症状を和らげ、環境調整のサポートを行っています。

Ophthalmology

眼科



眼科主任部長 棚橋 俊郎

先進的な手術で良好な術後成績

27ゲージ小切開硝子体手術、低侵襲緑内障手術、角膜パーツ移植、多焦点眼内レンズなど最先端の手術を行っています。2017年には手術アシスト器械ベリオンを導入したことで、白内障手術時の乱視矯正の精度が向上しました。

ステント用いた緑内障手術開始

欧米では多くの低侵襲緑内障手術用の器具が使用可能ですが、最近日本でもその一つ(アイステント)が認可されました。当院では日本で一番早くアイステントを使った手術を開始し、7割の方で術後に緑内障の目薬がいらなくなりました。

Neurosurgery

脳神経外科



脳神経外科主任部長 若松 弘一

SCUによる24時間体制の医療

11年前にSCU(脳卒中センター)を開設して以来、脳外科と神経内科がチームとして24時間体制で神経疾患に対応しています。専門看護師、リハビリ、退院支援スタッフと共に、患者さんの立場に立った質の高い医療を提供いたします。

ベテラン専門医による高度医療

全員が脳神経外科専門医であり、さらに脳卒中・脳神経血管内治療・脊椎疾患・頭痛の専門医がおり、脳腫瘍・脳血管障害・頭部外傷・頸椎疾患・顔面けいれん・頭痛・脳脊髄液漏出症・定位的放射線治療などに高度な医療を提供しています。

Day surgery center

日帰り手術センター



日帰り手術センター長 高嶋 吉浩

日帰り鼠径ヘルニア手術

完全な日帰りで鼠径ヘルニア手術を行っているのは、福井県内では当院のみです。また、腹腔鏡的鼠径ヘルニア修復術も日帰り手術に導入しており、患者さんの多様なニーズにお応えできる体制をとっています。

全国でも稀な日帰り直腸脱手術

直腸脱は、合併症の多い高齢者に多くみられる疾患であるため、極力体にやさしい手術が求められます。当院では、特殊な糸を肛門周囲にリング状に留置するティルシュ法を取り入れることで、全国的にも大変稀な日帰り直腸脱手術を実施しています。

Medical examination center

健診センター



健診センター所長 岡藤 和博

スタッフと健診内容の充実

常勤医に加え、院内外のサポート医師や生活指導のスタッフ、画像部門や内視鏡部門など専門性を要する部門は専任スタッフが担当します。

円滑な診療部門との情報連携

健診結果は、当院の電子カルテに反映され、健診からも電子カルテ閲覧が可能です。医療情報の相互活用が有効に行われています。

快適な受診環境

診療部門とは離れていること、吹き抜けの庭などがあることで、落ち着いて健診が受けられます。

Palliative care

緩和ケア科



緩和ケア科主任部長 土田 敬

20年間の経験とノウハウ

緩和ケア病棟としての豊富な経験と蓄積されたノウハウによる高度な看護と緩和治療を提供します。

早期からの緩和ケアチーム介入

専任の緩和ケアチームが術後や化学療法中の早期から一般病棟・外来でもご希望に応じて介入し苦痛を緩和します。

緩和ケア病棟から退院へ

往診、訪問看護、介護保険利用の手配や施設の紹介など、安心の在宅療養に向けてきめ細やかな退院支援を行います。

Medical emergency center

救急センター



救急センター長 山崎 法明

充実した救急診療体制

救急・総合診療に関する豊富な知識と豊かな経験を持った専属医3名と看護師により、日々救急搬送される患者さんの治療(診断と病態の安定化)を行っています。CT、MRIなど診断機器は24時間稼働しており、ほぼすべての疾患に対応できます。

専門科へのスムーズな引き継ぎ

すべての診療科のバックアップ体制が充実しています。重篤な状態で搬送された患者さんであっても、救急専属医が診断と同時に治療を開始することで病態を悪化させることなく、後方の適切な専門診療科へ切れ目なく治療を引き継ぎます。

Radiology

放射線科



放射線科主任部長 宮山 士朗

体に優しい高精度放射線治療

放射線治療専門医が、病変のみをピンポイントに治療できる最新の放射線治療装置(トモセラピー)を使って、効果が高く体に負担の少ない治療を行います。

精密な画像診断と画像下治療

最新の画像診断装置を用いて精密な検査を行い、その画像を放射線診断専門医が観察し病気を発見します。また画像診断装置で観察しながら、カテーテル治療専門医が、体に負担が少なく効果の高い治療を行います。

Department of Anesthesiology

麻酔科



麻酔科主任部長 新江 聡

安全で負担が少ない麻酔(手術室)

年間全身麻酔件数は約2600件。専属の麻酔科医5名(麻酔科専門医4名)にて、よりよい麻酔を提供できるよう日々努力しています。

各科専門医の協力体制(HCU)

病院の重症な患者さんを主治医だけでなく、麻酔科、循環器科、呼吸器科等の専門医が一致協力して治療にあたっています。

総合的な疼痛管理(外来)

西洋薬、漢方薬を使った薬物治療や各種ブロックにより総合的に疼痛管理を行っています。

Department of Rehabilitation

リハビリテーション科



リハビリテーション科主任部長 青竹 康雄

急性期365日リハビリ体制

患者さんの機能回復を最優先に考え、急性期の患者さんを中心に休日もリハビリを実施しています。

地域との繋がりに重点を

脳卒中・大腿骨頸部骨折などの地域連携パスを利用して、かかりつけ医とも連携を図っています。

がんのリハビリテーション

術前および術後早期からのリハビリ介入により、術後の合併症を予防しスムーズな回復を図ります。

Department of Mind

こころの診療科



こころの診療科主任部長 宿南 憲一

詳細な検査から診察、相談まで

外来診療にて診断から相談まで、幅広いサービスに対応しています。特に神経心理検査や画像検査は充実しており、脳形態画像検査や脳機能画像検査を用いて、より正確な診断を行っています。

認知症予防の啓発活動を実践

近年、認知症予備群である軽度認知障害に対する非薬物的介入の重要性がクローズアップされています。認知症予防に関する食生活、運動、アルコール摂取、喫煙に関するアドバイスも行っています。

がんになっても自分らしく生きていくために

今までがん治療を受けてきて、治療のことはもちろん、仕事や外見、精神面までたくさんのサポートをしてもらって、本当に心強かったわ！でも、どうしてこんなにきめ細かくサポートしてくれるのかしら？



Point 02 自分の思いを見直し伝える場と時間を提供

本当の意味での「良い治療」には、ご本人の気持ちや希望を医療者としてしっかりと共有することが必要不可欠。当院の「メディカルカフェ」は、まさにこの部分を目的として始まり、患者さんが自分の思いや必要としていることを見つめ直したり、伝え合ったりする場所・時間になっています。医療者への相談をはじめ、同じ立場である患者さんとの語らいやピアサポーターによる体験の共有などを通して、多くの患者さんが自分らしさを取り戻しています。



Point 03 みんなが自分らしく生きる地域づくりを目指して

がん患者さんへの直接的な支援だけでなく、がんの正しい知識をお伝えする市民公開講座や教室、青少年に対するがん教育などを通じて、患者さんを支える環境づくりにも力を入れています。がんの予防や早期発見の重要性を啓発すると共に、ご家族や地域の皆さん、そして若い世代の人たちに支援の輪に加わっていただき、がん患者さんを含めたみんなが自分らしく生きられる地域づくりを目指しています。



「良い治療」のための支援で患者さんの目指す場所へ

がんは今や、日本人の2人に1人が罹患する身近な病気となりました。医療技術の進歩によりがん治療の選択肢は増えてきましたが、「病気を取り除く」ことだけが治療ではないとわたしたちは考えます。患者さんは、症状や年齢も、家族構成も、社会的立場も皆異なります。それらを踏まえて、多方面から対応することが「良い治療」につながると考えたところから、相談や就労、外見の変化のケアなどさまざまな支援が始まりました。当院では、常に患者さんの立場に立ち、寄り添い、ありたい姿・目指す場所に向かう支援を行っていきます。



集学的がん診療センターセンター長 宗本 義則 医師

ともに人生を考えるパートナーに

数多くの支援があるからこそ、「何をえらんだらいいのか」と悩む患者さんもいらっしゃいます。今後は、病気の進行具合や環境などに応じて治療と生活、生き方についてアドバイスができる人材の育成も視野に入れています。

ご紹介してきた支援はそれぞれ視点こそ違いますが、背景の部分では全てつながっています。「病院でここまでやってくれるのか」というお声をいただきますが、私たちはさらにその先を見据えて取り組みを進化させていきます。

Point 01 生き方、治療、そして支援を選択できるように

これまで入院中心だったがん治療が外来通院で対応できるようになるなど、治療の変化に伴って患者さんの生活スタイルや考え方も大きく変わってきました。このことで、従来医療者が最善と考える治療を受けていた患者さんが、「家族と過ごしたい」「社会と関わりたい」というように、生き方を選べるような支援に主眼が移ってきたのです。患者さん一人ひとりが自分らしく生きるためのそれぞれのありたい姿・目指す場所を設定し、それを病院スタッフが専門的な知識や技術を活かして支援できることが、最大の意義であると考えています。



なるほど、がんの治療だけでなく「自分らしく生きる」ための支援まで考えてくれているから、こんなに丁寧にサポートしてくれるのね。よし、これからはちゃんと前を向いて生きていこう！



坂井市

身近なデンタルパートナー

ふじい歯科クリニック

[一般歯科、小児歯科、矯正歯科、歯科口腔外科、
歯科インプラント、審美歯科、予防歯科]

院長 藤井 敬也

明瞭・丁寧・的確な説明と治療で、
予防に行きたくなるクリニックに

昨年6月に開院しました。私自身、幼い頃は歯医者が苦手だったので、明るく入りやすい診療所を目指しました。診療室は大きめの個室でプライバシーを確保。中でも大きな「ファミリールーム」はベビーカーや車いすでも入れ、お母さんの治療中も安心です。また、治療器具のない予防専用の個室もあり、目的に応じてリラックスして診療を受けていただけます。

私が大切にしているのは「きちんと説明すること」。「正しい」治療を行い、「正しい」磨き方を身につければ、実はお口のトラブルはほとんど起こりません。その方法を実践し、歯を守る好循環を一緒に作っていきましょう。

坂井市丸岡町東陽2-44-1
TEL. 0776-66-8020

[診療時間]

平日 9:00~13:00 / 14:30~18:00
土曜 9:00~13:00 / 14:00~17:00

[休診日]

水曜、日曜・祝日

[京福バス丸岡線]

丸岡中央商店街バス停 徒歩約1分



永平寺町

苦痛が少なく質の高い医療を

永平寺クリニック

[外科、内科、胃腸科、肛門科]

院長 天谷 博一

経鼻内視鏡検査や院内処方など
患者さんにとって「楽」なクリニックへ

「佐藤医院」より引き継ぎ、昨年6月に「永平寺クリニック」としてリオープンしました。外科・胃腸科疾患、生活習慣病などを主に治療した経験とそこで培った知識を生かし、各関連病院との密な連携のもと、地元で親しまれるかかりつけ医を目指しています。糖尿病や高血圧、睡眠時無呼吸症候群などにも対応していますので、お気軽にご相談ください。

当院では各種検査・健診も行っています。特に内視鏡では経鼻タイプを採用し、「経口タイプより苦痛が少なく」と好評です。また2月からは院内処方を開始し、患者さんの負担を軽減。今後も、患者さんの利便性を第一に考えた医療の提供を行っていきます。

永平寺町東古市13-16
TEL. 0776-63-2112

[診療時間]

平日 8:30~12:30 / 14:00~18:00
土曜 8:30~12:30

[休診日]

木曜、土曜午後、日曜・祝日

[えちぜん鉄道勝山永平寺線]

永平寺口駅 徒歩約5分



鯖江市

忙しい目を少しでも楽に

たかはし医院

[内科、小児科、産婦人科、眼科]

副院長 高橋 依子

各種疾患、眼瞼下垂、コンタクト……
まずは気軽に“正しい”知識を！

この地で長年親しまれてきた当院に、昨夏、眼科が加わりました。院長が内科・婦人科・小児科、副院長である私が眼科を専門とし、連携しながら皆様の健康を広くサポートしています。

目は、無意識ながらも常に働いているもの。特に現代人は運転やスマホなど目を酷使する場面が多く、ケア無しでは眼精疲労や頭痛、肩こりなど全身の不調にも繋がってしまいます。簡単なケアで楽になりますので、一緒に目を労わりましょう。また、加齢による視力悪化・視界不良の抑制・改善にも対応しています。見えることは、気持ちや表情にも影響します。少しでも“明るい”毎日を過ごしましょう。

鯖江市小黒町3-11-28
TEL. 0778-54-0550

[診療時間]

平日 9:00~12:30 / 15:00~18:30
土曜 9:00~12:30

[休診日]

水曜・土曜午後、日曜・祝日
※眼科のみ水曜休診

[鯖江市コミュニティバス豊線]

小黒町バス停 徒歩約3分



福井市

内視鏡もできるかかりつけ医

井上内科外科クリニック

[内科、外科、消化器内科、胃腸科、肛門科、肝臓内科]

院長 井上 剛志

内視鏡を始めとした各種検査から怪我の治療まで
幅広くスムーズに健康をサポート

昨年10月に開院致しました。専門領域である消化器科をメインに、生活習慣病を始めとした一般的な内科系疾患、循環器・呼吸器疾患、アレルギー疾患、肛門疾患、外科系疾患まで幅広く診療しております。胃癌や大腸癌など悪性疾患の早期発見に貢献できるよう、積極的に内視鏡検査(胃・大腸)に取り組んでいます。手術が必要となった場合には、これまでの知識や経験を生かして分かりやすく病状を説明、適切な医療機関と連携していきます。各種基幹病院で培った人脈を生かし、患者さんそれぞれの症状に合わせた適切な治療・紹介を心がけています。どのような症状でも気軽に相談していただける身近なクリニックを目指しております。まずは一度ご来院ください。

福井市高木中央2-2515
TEL. 0776-63-5039

[診療時間]

平日 8:30~12:30 / 14:30~18:30
土曜 8:30~12:30

[休診日]

水・土曜午後、日曜・祝日

[京福バス高木線]

高柳町バス停 徒歩約1分





ご案内

Announce

初診時の保険外併用療養費の変更について

当院では平成30年4月より、紹介状を持参されない初診の方を対象としてご負担いただいていた「保険外併用療養費」を5,000円(税込)に変更いたします。

初診時保険外併用療養費とは

厚生労働省が大病院と地域の医療機関(かかりつけ医など)との役割分担を進めている中で、「初期の治療は地域の医院や診療所で行い、高度・専門医療は病院で行う」ことを目的として定められた制度です。

この度、当院のような400床以上の地域医療支援病院において、他の医療機関からの紹介状を持参されない初診の患者さんに、初診にかかる費用とは別に「保険外併用療養費」として5,000円(税込)以上の支払いを受けることが義務付けられるようになりました。

当院は今後も、他の医療機関と連携・協力し、地域の中核病院としての役割を果たしていきたいと考えております。

この件につきまして、お問い合わせやご質問がございましたら、総合受付までお尋ね下さい。



- ※ただし、次の方につきましてはご負担いただきません。
- 他の医療機関からの紹介状を持参された方
 - 特定健診、がん検診等の結果により医療機関受診の指示を受けた方
 - 緊急な診療を必要とされる方(救急車で来院された方)
 - 生活保護法により医療扶助の対象となる方
 - 特定の疾病又は障害などにより各種公費負担制度の受給対象となっている方
 - 保険診療対象外の診療(労働災害、交通事故、健康診断、自費診療等)を受けられる方(ただし、後日保険精算となる場合は5,000円をご負担いただきます)

妊娠中の受診におけるお願い

当院では、お母さんとお腹の赤ちゃんの安全に配慮して、検査や投薬などを行っています。安心して受診していただくために、妊娠中、または妊娠の可能性のある方は、外来受診時に必ずスタッフまでお申し出ください。



ご案内

Announce



ご意見

Opinion Box

「災害時の備え」

についてのご意見

いただいたご意見

2月の豪雪の際に入院していましたが、このような災害時に電気や燃料が無くならないのかと心配になりました。病院の備えはどうなっていますか？

お問い合わせありがとうございます。当院は、災害時に備え、常に資機材等の備蓄をしております。空調や給湯などに使う重油も専用タンクに蓄えががあります。2月の豪雪時においても病棟、外来ともに大きな問題なく稼働することができました。

また2014年には敷地内に非常用自家発電設備を設置し、手術室や集中治療室はもちろんのこと、院内すべてに災害時にも安定した電力を供給できる設備を備えています。



北側駐車場に配備した自家発電機

ご意見箱設置場所

本館1階

- ・総合サービスカウンター横
- ・内視鏡センター受付前
- ・緩和ケア病棟
- ・ヘアサロン横休憩コーナー

本館3階

- ・家族待合室内

東館1階

- ・東館玄関横



コラム

Column

わたしの おススメの1冊

「非営利組織の経営」

ドラッカー名著集4

P.F.ドラッカー著



福井県済生会
支部長
三浦将司

「中央が全体を統括しているが、実質的には支部の連合体であるという組織の場合は、特に明確な基準が必要となる。この共通性と自立性を同時に可能とするものが、基準の高さである。支部が中央の意向に従うのは、中央の持つスキルのゆえでなく、基準の高さゆえである」

10年以上前に、ドラッカーのこの「転開」に触れたとき、強い衝撃に打たれたことを今でも覚えております。済生会の源流を辿れば、明治天皇の「生活に困っている人々を医療の面で救済

する」という心があります。済生会が今まさに掲げる理念は、その高さや実現の難しさゆえに、私たち全国済生会職員の基準となり、それぞれの支部・施設で理念を持って活動を行っています。炭谷茂・済生会理事長が率先して「困窮者」に手を差し伸べる行動と理念があるがゆえに、済生会の揺るぎない全組織の存在があると信じています。

済生会は今後も、困窮者のために一丸となってその高い基準に向かいたいと思っております。